

マロニエ

福島市立平野中学校 学校だより No.10

文責：校長 佐藤 裕子



さらなる最高到達点へ。〔後半戦〕

まさに「笑顔満祭」、最高の瞬間を刻んだ梨秋祭が終了し、はや10日が過ぎようとしています。改めて、保護者の皆様には多数ご来校いただき、温かなご声援・ご協力をいただきありがとうございました。ふるさと平野に学び、ふるさとに愛され、ふるさとに発信することができる生徒たちは、本当に幸せであります。梨秋祭をきっかけに大きく成長した生徒たちのこれからが楽しみでなりません。

実りの秋に、1年生は「先輩」となる準備を、2年生は生徒会活動等の中心となって、3年生は進路希望の実現に向けて、一日一日を大事にするよう励まし、指導していきます。生徒一人一人にとって、さらなる最高到達点が生まれることを期待しながら。



【頼もしい新旧生徒会本部役員】

全校生徒がひとつとなった梨秋祭、教職員もともにひとつになる素晴らしさを味わうことができました。

今週末は楽しい体育祭・野外炊飯があります。



【見事にくす玉が割れました】



■本日「通知票」をお渡ししました。

今年度から「2期制」(前期・後期)で評価・評定をお知らせします。教育的・学校運営的な意義やねらいは次のとおりです。

○ より「継続的・総合的」な学習評価

3学期制の場合、学期ごとに成績をつける必要があり、短期間で評価が区切られます。2期制では、評価期間が長くなるため、生徒の学習の過程や成長の様子をより長いスパンで見取ることが可能になります。一時的な成績の上下ではなく、「学習の定着」や「意欲・態度の変化」を含めた総合的な評価がしやすくなります。

○ 学習・指導の時間の確保

通知票作成や成績処理にかかる業務が年2回になるため、授業や個別支援に充てる時間が増えます。教師がテストや評定処理に追われにくくなり、じっくりとした学びに時間を割くことができます。

○ 生徒にとって途切れぬ「学びの流れ」

2期制では、学びを大きな流れの中でとらえることができ、年間を通した学習の積み重ねを意識しやすくなります。

○ 生徒・保護者との面談やフィードバックの充実

通知票は2回でも、教育相談を(7月・11月)と年2回行うことで、成績以外の部分(学習態度・生活面など)を丁寧に伝える機会が増えます。数字だけでなく、成長や課題を対話することで共有します。

○ 学校運営の効率化と教育活動の充実

行事・テスト・評価のサイクルを整理しやすく、年間行事計画の見通しが立てやすくなります。教職員の働き方改革にもつながります。

■今年度前期“挑戦”を振り返ります。

- ◎ 日課表を見直しました
- ◎ 学年チーム担任制にしました
- ◎ 学校リノベーションを行っています



1) 日課表の見直し

(ノーチャイム)⇒PTAより寄贈いただいた大きな時計を見て生活しております。

① 時間を意識して行動する「自律心」の育成

チャイムが鳴らないことで、生徒自身が時計を見て行動する習慣が身に付いてきました。「鳴ったから動く」から「自分で考えて動く」への転換が促され、主体的な生活態度・時間管理能力が育っています。これは、将来の社会生活(高校・職場・地域)で大事な「自律」につながります。

② 落ち着いた学校環境

チャイムの音によるざわつきや移動の慌たじさが減り、学校全体が静かで落ち着いた雰囲気になっています。授業の始まりと終わりが自然に切り替わることで、学習への集中や余韻を大切にできるようになっているように感じています。

③ 高まる生徒と教師の「時間に対する共通意識」

教師も生徒も「時間を守る」という価値を共有し、学校全体で規律を守ることによって信頼する気持ちにつながっています。

2) 清掃回数を週2回に減らし、時間も15分→10分に短縮

① 学習・活動時間の確保

清掃回数・時間を減らすことで、「スタイルアップ・プロジェクト」を行ったり、職員ミーティングの時間を確保したりすることができました。また、平日2時間の活動時間は確保しつつ、部活動終了時刻を17:30とし、生徒の下校時刻を早くすることができました。これは、下校時の安全面や家庭学習時間の

確保にもつながり、さらに教職員の働き方改革の一助となっています。

② 清掃への集中力・効率の高まり

一斉清掃をやめたため、整列時間の無駄がなくなり、生徒に「短時間で終わらせる」という意識が働き、メリハリをもって掃除に取り組むようになっていきます。掃除の目的意識（「時間内にやりきる」「協力して効率的に」）を明確にもっているようです。限られた時間の中で行うため集中力が育っています。

【デメリット・課題に対する対応】

▲清掃回数が減る分、埃・汚れ・ごみの蓄積が起きやすくなる。

⇒ 10月から新たな清掃用具（モップ）を導入しました。

⇒ 清掃分担（人数配分）を見直し、時間がかかる場所の人員を増やしました。

⇒ SSS 小林さんが、共有スペース（廊下・階段など）のモップ掛けをしてくださっています。

3) 学年チーム担任制

① 教員間の情報共有と支援

どの学年も毎週水曜日に「学年教師会」を行い、生徒の様子、学習・生活上の課題等を共有しています。問題が生じたときは、チームで迅速に対応しています。これにより、一人の担任が問題を抱え込まず、教職員の心理的負担の軽減につながっていると感じています。

② 生徒の多面的な見取り

教員によって見方や関わり方が異なるため、生徒の良さや課題を多角的に把握できます。「ある先生には話せる」「別の先生には相談できる」というように、生徒にとっての安心感・居場所が増えているのではないかと思います。教員が「学年の子供たち」という共通意識を持つことで、一体感のある学年経営の実現につながっています。

③ 教員の働き方改革

保護者連絡、行事準備などを学年で分担して行い、学年事務等が効率化されています。生徒指導もチームで対応するため、夜遅くまで一人で対応する負担はありません。新採用教員や若手も、経験豊富な教員から学びながら業務を進めています。

④ 学年経営方針・指導方針の統一

チームで学年運営するため、学年経営方針・指導方針の一貫性が保たれます。「クラスによって指導の厳しさが違う」といった不公平感ありません。

⑤ 生徒にとって安心・公平な支援体制

どのクラスの生徒も複数の先生に見てもらえるため、特定の担任との相性問題を緩和できているように感じています。欠席・不登校などの生徒にも、他の教員がフォローしやすいです。10月26日現在、不登校生徒数は今年の半数となっています。

4) 学校リノベーション

- これまで資料室という名の物置になっていた場所（北校舎2F）のリノベーションを行いました。PTAのご支援により、素敵なミーティングルームとなりました。生徒会役員、各委員会、学年教師会等で利用しています。「対話」を大切にしたい学校運営を行ってまいります。

5) 校長から

授業の質向上や子供への細やかな指導は、教職員の働き方改革と大きく関わっていると考えています。教職員の働き方改革は、残業を減らすことが最終的な目的ではありません。本校では、働き方を変えることで生まれた「創造的な余白の時間」を活用して「教職員が質の高い授業をすること」「子供たちとしっかり関わって子供たちが成長すること」と共通理解しております。そのためには、教職員の業務の適正化が必要です。教職員が担うべき仕事は何か、保護者の皆様や地域の方と連携して進めなければならない仕事は何か、今後も地域の教育力を生かした学校経営を行っていきたいと考えています。

教員がワクワクして授業をすること、笑顔で生徒の前に立つことができる環境を整えることを大切にしていきます。引き続き、ご理解・ご協力をよろしくお願いいたします。